

新年のご挨拶



総長 倉智 博久

皆さま、明けましておめでとうございます。
清々しい気持ちで、2024年の新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。
本年もどうぞよろしくお願いいたします。

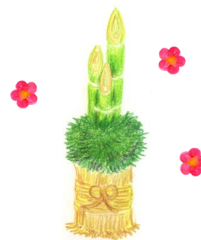
地域の医療施設の皆さまには、多くの患者さんをご紹介いただき、また、在宅医療や移行期医療などに協力していただくなど、当センターの運営に多大なご支援をありがとうございます。私たちは、高度先進医療に取り組むとともに、救急を含む周産期・小児医療分野で幅広い地域のニーズにお応えすることが極めて重要な責務であると考えております。引き続きご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症も、昨年5月には5類感染症となり一つの区切りがつかしましたが、今後も感染対策は継続する必要があります。当センターは、府内で最も多くの小児患者を受け入れました。重篤な脳症などの重症者も多く、重症例はすべてワクチン未接種でした。したがって、小児にとっても軽視すべき感染症ではなく、ワクチン接種が強く奨められます。

「医師に対する時間外・休日労働の上限規制」の適用期限が迫って来ました。われわれも、「医師労働時間短縮計画」案をいち早く作成し、評価センターとの協議も順調に進んでいます。また、労働基準監督署と協議し、11月末で8枠の宿直許可を得ることができました。しかし、このことは働き方改革の本質ではありません。より重要なことは、勤務の効率化、タスクシフト、AIを含めたICTの活用などで勤務時間の縮減を図ることです。「働き方改革」については、地域の医療施設の皆さまにご協力をお願いすることもあろうかと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

当センターにとっての重要な課題は建て替えを推進することです。おかげさまで、本年度は基本設計に進むことができ、次年度から実施設計、そして2025年度中には着工の予定です。しかし、「建て替え」はここからが本番で、とくに、最近の建築費の著しい高騰の影響を大きく受けて様々な困難も発生しています。これに対しては今後も、府立病院機構と大阪府の協力をいただいて着実に建て替えを遂行していきたいと考えています。

いくつかの困難がある状況下ではありますが、建て替えを肅々と進めるとともに、地域医療における責務を全うしてまいります。本年も、皆さまのご支援とご協力をよろしくお願いいたします。



基本理念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します。

基本方針

- 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。
- 患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います。
- 地域と連携して、母子保健を充実させます。
- 母子に関する疾病の原因解明や先進医療の開発研究を進めます。

心臓超音波診断装置をリニューアルしました

生まれつき心臓に病気のあるお子さんが生まれる確率は100人に1人であり、決して稀ではありません。また、胎児期の形態異常で気付かれる症例から、出生後のチアノーゼや心雑音で見つかる症例など診断の契機は様々です。いずれのタイミングであっても心疾患を疑った場合、すべての患者さんに心臓超音波検査を施行して、診断とその治療方針を決定しています。

当センターでは、検査室に3台、病棟に2台、手術室に1台の心臓超音波装置を所有して、日々患者さんに検査を行っています。今年度より心エコー室に2台のPhilips EPIC心エコー機器が導入されました(図1)。EPIQにより鮮明な画像での正確な形態評価(図2)のみならず、3Dデータを使用することで、左室のみならず、右室、左房の機能評価が可能となりました(図3)。

これらを駆使することで、小さな子どもに低侵襲な心臓超音波検査で得られた情報を治療に生かすことができるようになりました。



図1. 新しい心臓超音波装置

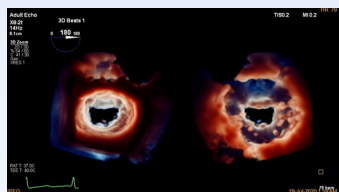


図2. 借帽弁の3D形態図

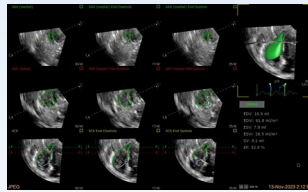
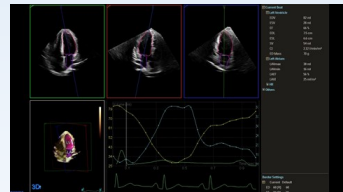


図3. 左心房/左心室の機能解析図



右心室の機能解析図

当センターでは、このように患者さんを第一に考え、日々診療にあたっております。少しでも心臓に気になることがありましたら、お気軽にご紹介していただければと思います。

(小児循環器科 副部長 石井 陽一郎)

CAR-T細胞療法(キムリア®)施設認定

白血病の治療は、抗がん剤治療や骨髄移植(造血幹細胞移植)が中心です。近年は新たに免疫療法が加わってきました。



その中でも、CAR-T細胞療法は、狙った白血病細胞を攻撃できるように作り変えた免疫細胞(T細胞)を、静脈血中に点滴投与します。

つまり本法は免疫療法であるとともに、遺伝子治療(攻撃の仕組みを遺伝子導入で付与)、細胞療法(特定の機能を有する細胞を投与)でもある訳です。

全国でもこの新しいキムリア治療ができる施設は限られており、当センターも1年半の準備期間を経て2023年8月に施設認定を受け、実際の治療を始めしています。

当センターの新たな一歩です。

(血液・腫瘍科 主任部長 澤田 明久)

ホームページはこちら



体成分分析装置 InBodyを導入しました

生体電気インピーダンス分析(BIA)法によって体成分を測定する機器で、栄養状態や体のむくみ、成分分布を評価して適切な栄養管理につなげることができます。

座位や仰臥位で測定できるため、立位保持が難しい子どもでも測定可能です。



さまざまな基礎疾患を持つ子どもは、身長・体重の計測データによるBMIや肥満度だけを栄養評価の基準にすることには限界があり、体の構成成分(細胞内外の水分量、タンパク質量、ミネラル量、体脂肪量)をInBodyで分析することで、疾病の治療に役立つことが期待されます。

(消化器・内分泌科 副部長 萩原 真一郎)

認定看護師の紹介

手術看護認定看護師は、術前～術中～術後の周術期にわたり継続した看護を行い、患者主体の手術環境を整え、患者さんが不安なく手術を受けられるようにサポートします。

私は手術室に所属しており、手術に伴う合併症を予防するためのケア（体温管理、褥瘡・神経障害予防、体内異物遺残防止、感染予防等）を行います。

また、手術を受ける子どもさんや保護者の方が安心し、納得して手術が受けられるように、術前からの関わりや手術室入室方法の工夫を行っています。

術後は、子どもさんや保護者の方に手術室での頑張りを伝えることで、子どもさんの自己達成感を育む取り組みをしています。



手術看護認定看護師
中島 佳代

周術期看護に関する勉強会などを希望される場合はお気軽にご相談ください



オンライン診療 始まりました



2023年3月より小児循環器科長期フォローアップ患者さんを対象にオンライン診療を開始しました。現在、月3人程度の患者さんに利用していただいています。

採血や心エコー検査は来院していただき、結果報告はオンラインにて行うことが可能となります。現在、一部の患者さんに試行的に行っていますが、今後課題を調整し対象者を増やしていくことも検討したいと考えています。

(小児循環器科 部長 青木 寿明)

医療的ケア児支援センター 活動報告 1



今年度4月に開設された大阪府医療的ケア児支援センターの開設後半年の活動報告です。

- 窓口相談： 開設当初に月平均120件だった相談件数は徐々に増加し、10月には272件のご相談に対応させていただきました。
- 圏域会議： 大阪府を北部、中部、南部の三圏域に分け、各圏域別に多職種連携会議を始めました。

他にも、

- 各市町村における相談窓口の明確化
- 他府県の支援センターとの積極的な意見交換
- 府議団、市議団、他県担当者との意見交換
- 災害対策への参画

など、医療的ケア児支援に関して活動を開始しております。引き続き皆さまのご指導、ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

(大阪府医療的ケア児支援センター長 望月 成隆)

当センターオリジナルキャラクター モコニヤンの誕生日 (11月26日)

今年もモコニヤンの誕生日のイベントを行いました。11月上旬に患者さんやご家族、病院スタッフからのメッセージを募集し、アトリウムに掲示しました。



去年より多くのメッセージが届きアトリウムの壁いっぱいになりました

11月22日には病棟へ、24日には外来へモコニヤンがあいさつに回りました。そこでもたくさんの「おめでとう」の声をいただきました。



イベントにご参加いただいた皆さまありがとうございました♪



乳幼児健診からのオンライン初診予約（外科系疾患のみ）

この度、保健センターでの乳幼児健診にて外科系疾患が疑われる症状(下表参照)がある場合に、スマートフォンから簡単に当センターの初診予約ができるシステムを導入しました。



2022年10月から一部の保健センターに試用していただき、患者さんを待たせることなくその場でいっしょに予約をとることが可能になっています。また、このことにより保健センターの皆さまの業務の効率化にもつながるとのお声も頂戴しています。

現在、近隣の保健所に順次案内をさせていただいていますが、もし本システムに興味を持たれた場合には下記までお問い合わせください。なお、内科的疾患や緊急を要する外科的疾患は従来通りFAXにて対応させていただきます。 お問合せ先 医事グループ 矢野(内線7219)

整形外科	○脚、開排制限など
形成外科	あざ、耳介の異常、指の異常など
泌尿器科	外性器の異常など
脳神経外科	腰仙部皮膚の陥凹、頭の大きさ・かたちの異常など
耳鼻咽喉科	難聴など
口腔外科	発音、睡眠時の無呼吸など
小児外科	ヘルニアなど

新型コロナウイルス感染症対応記録集が完成しました

昨年12月に、「新型コロナウイルス感染症対応記録集」を公開しました。

2020年から当センターが取り組んできたコロナ対応についてまとめたものです。

今までの対策の継承あるいは改善すべき点を明らかにするとともに、将来のパンデミックや様々な災害対策などの参考になるよう、対策・感染症診療・各部署からのコラム・各種関係文書・各部署のガイドライン等を掲載しています。母児同室を行うためのガイドラインも含まれます。



この記録集はウェブサイトで閲覧することができますので、ご関心のある方はぜひご覧ください ▶▶

事故防止啓発キャンペーン

11月の児童虐待防止月間に合わせ、シンボルマークのオレンジリボンを用いて**オレンジリボンキャンペーン**を実施しました。

職員が「なくそう！こどもの事故!」のバッジやシールを着用し、子どもの事故に関するパネル展示も行いました。



11月9日は「みんなでオレンジモコキャンを作ろう」のイベントを開催し、モコキャンも遊びに来てくれました。

約90名の子どもたちがオレンジリボンパネルに貼ってくれました。



診療時間：平日 9時～17時30分
予約受付時間：平日 9時～19時

地方独立行政法人 大阪府立病院機構
大阪母子医療センター 患者支援センター
 〒594-1101 大阪府和泉市室堂町840
【初診専用】 TEL：0725-56-9890（直通）
FAX：0725-56-5605
【その他】 TEL：0725-55-3113（直通）
FAX：0725-56-7785
【医師相談窓口】 E-mail：chiren@wch.opho.jp

医療対象者
ホットライン
 (※24時間受付直通)

PICUホットライン
0725-56-1070

小児がん・白血病
 ホットライン
0725-57-7677

心疾患ホットライン
0725-56-3833

この広報誌に関するご意見・ご要望はFAXにて患者支援センターにお寄せください。